

事業所の概要表

(令和 4 年 8 月 20 日現在)

事業所名	グループホームみつはま					
法人名	医療法人岡本医院					
所在地	松山市住吉2丁目2番21号					
電話番号	089-953-5247					
FAX番号	同上					
HPアドレス	http://					
開設年月日	2002 年 12 月 26 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1,2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 16 人			
利用者人数	16 名 (男性 3 人 女性 13 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	3 名	要介護2	2 名
	要介護3	1 名	要介護4	3 名	要介護5	6 名
職員の勤続年数	1年未満	0 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	3 人	10年以上	9 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 3 人		介護福祉士 6 人			
	その他 (認定特定行為業務従事者 2名)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	医療法人岡本医院 ・医療法人渡辺病院 ・山本歯科医院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 40 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円	
敷金の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 40,000 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,300 円 (朝食: 250 円 昼食: 450 円)
	おやつ:	150 円 (夕食: 450 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input checked="" type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	10,000 円 (エアコン使用時100円/日)
		円
		円
		円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input checked="" type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年9月13日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	15
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870102997
事業所名	グループホームみつはま
(ユニット名)	Aユニット・Bユニット
記入者(管理者)	
氏名	宇野明美
自己評価作成日	令和4年8月20日

<p>【事業所理念】※事業所記入 同じ屋根の下、互いを尊重し、認め合い、助け合い、楽しく生活する。 “いつも一緒、同じ屋根の下で、心と心で行きましょう。”をスローガンにしています。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 外部評価結果と目標達成計画が、家族の方々にきちんと行われていないということで、報告を明確に行い、家族の方々に現状をわかっていただき、より良い方向に、家族の方々と共に考えていきたいということで取り組みました。 結果と報告を、家族の方々に送付し、感想、ご意見をお聞きしています。 家族の方々に「現状と問題点を知っていただいたことは、よかったですと思っています。家族の方々の理解を得られたと思っています。」</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 地域行事は中止ではあるが、秋には、神輿の訪問はあり、利用者は、感染症対策を徹底して、お花代を渡し、玄関先で見学した。 身体機能の低下に伴い、紙パンツ使用となった利用者について、栄養補給と筋力アップ、歩行練習を継続して支援し、布パンツで過ごせるまでに状態が改善した事例がある。 屋食の出前を取る際(年数回)には、個々に食べたいものを注文できるように選んでもらっている。 友人から電話が掛かってきたり、こちらから掛けたりする際には、職員が仲介をしている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の生活の中で、利用者の思いに寄り添い、悩みや希望など聞くよう努めている。	◎			入居時には、本人や家族に思いや暮らしへの希望、意向をアセスメントシートの「利用に関して本人及び家族の思い」欄に記入してもらっている。日々の中で聞いた情報は、個人記録に記入している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴などを考慮し、検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	本人の思いについて、家族の方には、毎月のお便り、電話などにてお知らせし、相談している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活の記録をしており、共有化している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人の思いを一番にと努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居の際に、生活歴や、暮らし方、大切にしてきたことなど、お聞きしている。				入居時、アセスメントシートの項目(生活歴、趣味、嗜好等)に沿って聞き取ったり、記入してもらったりしている。日々の中で聞いた情報は、個人記録に記入している。さらに、馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境などの情報についても把握に取り組み、支援に採り入れてはどうか。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の健康状態、心身の状況に留意し、現状の把握に努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	職員同士の申し送りや、記録などで、情報を共有している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点で検討しているが、情報量が少ない場合もある。				月1回のミーティング時に職員が情報を持ち寄って検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	その支援がより良いものになっているか、再度検討し、課題を見つけるようにしている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	日々の生活の暮らしやすさを考え、より良くなるようにしている。				事前に聞き取った本人の希望・家族の要望や医師の意見を反映して計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族の方と連絡を必要時行い、医療とも連絡し、必要な支援が行えるように努めている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の思いを大切に考え、どのようにしたいのかを含め作成している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の方と地域の方も含めた内容になっているが、コロナ禍で、実際には難しい状況となっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の申し送り、月一回のミーティングにて共有している。				介護計画の内容は、ミーティング時に話し合ったり、個人記録に綴じたりして共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の生活の中で、変化があれば職員間で話し合い、意見を出し合い、支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	サービス計画更新時には、見直しを行っている。			◎	管理者、計画作成担当者が期間を管理しており、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日々の生活記録とサービス計画とを合わせ確認している。			○	月1回のミーティング時に、介護計画の内容にかかわらず、すべての利用者の現状について話し合っている。さらに、介護計画の現状確認を行うような取り組みにも工夫してほしい。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	急激な変化があった場合、それに適したサービス計画の見直しを行っている。			○	身体状態の変化等には、家族と話し合い、計画を見直している。この一年間では、看取り支援開始時に計画を見直した事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急性がある場合、その場にいる職員同士で話し合いを持っている。必要時、主治医に連絡、相談している。			◎	月1回、ミーティングを実施して議事録を作成している。緊急案件がある場合は、その日の勤務職員で話し合っている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月1回の会議ではその様に行っている。日々の業務の中で、お互いの関係が良好になるよう努めている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	なるべく全員参加するようにしている。			○	毎月、第2週目にミーティングを行っており、曜日は、職員の予定なども踏まえて、月ごとに月一火一水とずらして行うようにしている。欠席した職員は、議事録を確認するしきみをつけており、重要なことは、管理者が口頭で補足している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員間の申し送り、業務日誌、個人記録などで行っている。	◎		◎	利用者に関することや家族からの伝達事項は、個人記録に記入している。申し送りが必要な内容は、業務日誌に記入している。内容によっては、事務所の掲示板や冷蔵庫にも掲示している。職員は、個人記録や業務日誌に目を通してから勤務に就くことになっている。	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者との会話を心がけ、把握に努めている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定する場面では、なるべく時間をかけ選んでもらっている。			○	おやつを数種類の中から選んでもらったり、朝食がパン食の人には、食パン、クロワッサン、レーズンパン等の中から選んでもらったりしている。また、食事する場所の希望(居室でラジオを聴きながら食べたい等)を聞くケースがある。	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活のリズムを大切に見守り、行動を抑制しないように努めている					
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	職員は、家族のような声掛けを心掛けている				○	正月や節句、花見、敬老会など季節行事の折には、出前や好きな食べものを購入して、利用者の楽しみをつくらせている。花見に出かけた際の写真を居室に飾り、職員が時々話題にして楽しかった時の話をしている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	日々の表情に気を付け、安楽な生活ができるよう支援している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめさりげない言葉かけや対応等)	○	勉強会の場で、虐待や、高速について話し合い、自分自身を見つめる機会を作っている。	◎	◎	○	3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会時に学んでいる。また、勉強会(高齢者虐待、権利擁護等)で学んでいる。職員は気になる言動があれば、直接注意したり、ミーティング時に話し合ったりしている。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	その都度の声掛けに心がけ、行動をとるようにしている。					
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入退室の声掛けや、入居者の表情に気を配り行動している。				○	居室で過ごす利用者には、職員は、「失礼します」と声をかけてから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員間で気を付け、守るように努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々の生活の中で、お互いの信頼性を築き、本音を言えるよう心がけている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	家族のような、関係性を大切にしている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	日常行動に注意し、トラブルになりそうな時には、職員が間に入り、仲良く過ごせるように支援している。				○	食事をせず、居室にいるような利用者には、他利用者が「大丈夫」「ご飯食べないといかんよ」と言って食事に誘ってくれるような場面がある。トラブルになりそうな時には、職員が間に入って、対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	お互い同席する時など、気配りをし、トラブルにならないようにしている。					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメント情報を、日々の会話の中で、より深く知るよう心がけている。					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	今はコロナ禍で、面会、外出が制限されている。電話などで交流が途絶えないようにしている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍であり、特別な希望、用事以外は、外出は控えてもらっている。		△	△	×	玄関先で過ごすことはあるが、機会は少ない。花見したり、ドライブしたりすることもあるが外出支援はほぼ行っていない。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍であり、今はできていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	その人その人の気持ちに沿い、支援するよう心掛けている。						
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の生活に寄り添い、活気ある生活ができるよう声かけなどの支援をし、できないことは一緒にするなど、支援に努めている。						
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守ることが大切と考え、そのようにしている。	○		○	食事中、ゆっくり自分のペースで食べる利用者を、職員は、静かに見守っていた。		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	把握して支援するよう努めている。						
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	重度の寝たきりの方も多いが、その方たちには、声をかけたり、話し相手をするように努め、少しでも楽しく過ごしていただけるよう努めている。	○	◎	○	誕生日の日の昼食は、本人の好きな食べ物や希望するものを用意しており、お祝いの言葉をかけたり、歌を歌ったりして、楽しい日になるよう取り組んでいる。		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	把握して努めている。						
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	その様に支援している。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	その様に心がけている。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	皆さんご自分のものを持たれており、その人らしい服装をされている。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできず、髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	その様に心がけている。		○	◎	○	昼食時、職員が利用者にてィッシュを渡すと、本人が自分で口の周りを拭いていた。	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	その様にしているが、今はコロナ禍なので、職員にて行っている。					衣類は、家族が用意している。利用者は、清潔な服を着て過ごしていた。	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人さんに似あうものをと、支援にあたっている。				○	重度の利用者については、本人からの「楽だから」という希望で、寝巻で過ごす人が多い。中には、上着は洋服、ズボンに履き物の人や、髪のカットは、職員が行っている。	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さ、楽しみ方など重要と思っている。						
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	重度の方が多く、なかなか難しいところあり。利用者さんより、食べたいもの、買いたいものなど聞き、希望に沿うよう努めている。(代わりに購入)				△	朝食は、食材を注文して配達してもらい、事業所で作っている。昼・夕食は、業者からきた食事が届く。利用者の中には、下痢して自分が使った食器を洗い、片づけする人がいるが、利用者が食事一連のプロセスに関することはほとんどない。	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	医療的なケアが必要な方が多く、なかなか難しい状況あり						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	利用者さんになるべく合わせるように献立作りをしている。別メニューを用意する方あり				○	正月には、おせち料理や雑煮・七草がゆなどを手作りしているが、普段の献立に利用者の好みや利用者にとって昔ながらの味を取り入れることは少ない。食事内容が口に合わないような時には、本人の好きな蕎麦等を代替えに用意することがある。	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	その様にしている。						
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	その様に努めている。				◎	自宅から持参したものを使用している。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	以前はそうしていたが、今はコロナ禍であり、食卓は、別にしている。					△	職員は、利用者の食事介助や見守りを行ってから、利用者と同じものを食べている。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事が全くとれない方もおられる。会話の理解が困難な方もおられる。			○		○	朝食のみ事業所で手作りしており、調理の音やにおいがする。職員は、献立の内容や食材を伝えてから介助している。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	職員間で情報を共有している。栄養量、水分量については主治医よりの指示もあり。						
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	少しでも食べていただけるように工夫している。主治医に報告相談し、医療面での対応もあり。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	その様に配慮している。					○	食事の形態や調理方法については、口頭で話し合っている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具の消毒を行い、気を付けている。期限のある食材には気を配り、毎日の盛り付け時には、留意している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	必要性、重要性を理解している。				口腔ケア時に職員が目視し、異常があれば受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	日々のバイタル値や会話の中での訴えなど、注意深く観察している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科の往診などはしていただいている。その時には、指導を受けている。日常の支援に生かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日、手入れが行えるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	本人の訴えがある時、歯科医の受信を支援し、毎日の口腔ケアがきちんと行えるよう支援している。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。				必要があれば、送り時やミーティング時に話し合っている。身体機能の低下に伴い、紙パンツ使用となった利用者について、栄養補給と筋力アップ、歩行練習を継続して支援し、布パンツで過ごせるまでに状態が改善した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。排泄管理については主治医に報告し相談、指示をいただいている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	把握し、支援している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	△	その様に努めているが、トイレの作りが狭く、トイレ介助が困難な環境あり	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	トイレ環境の改善は、困難である				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の様子に合わせて、行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員の考えだけではなく、自分で判断できる方には、相談したり、希望を聞いたりしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その様にしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳酸飲料を取ってもらったり、水分量を検討したりしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	長さ、温度などは、希望や習慣に合わせるようにしているが、時間帯、回数などは都合となっている。	○		△	週2回、午後から入浴を支援している。長さや温度はその都度、希望を聞いている。男性利用者の中には、入浴中に髭をそる習慣の人がおり、入浴後も続けて行えるよう支援している。入浴剤を入れたり、ゆず湯を楽しんだりしている。重度の利用者については、設備や人員の都合により、清拭のみやシャワー浴のみのケースがある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	その人その人に合わせて入浴していただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	着脱、入浴について、ご自分でできることはしていただくようにしている。体力のない方は介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	体力がなくて拒む人、恥ずかしい人など、それを理解するよう努め、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その様に気を付けている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	把握している。				薬剤を使用する利用者については、医師と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠にならないようにするとか、気を付けている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	医療と連携し、総合的に行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	なるべくそのように支援している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	そのように支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	手紙の代筆をしたり、本人の思いを電話したりの手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があれば、電話できるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	その様にしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	そういう風にしてはいるが、無理なお願いはしていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	今は、ネットスーパーでの買い物をしており支援している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族さんの理解を得て、本人の希望する者の購入を支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合っで決めている。(自分持たか、本人の希望するものを購入して良いかなど)決めている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的に金銭管理はしないことになっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々、皆で話し合い、本人が納得できるようにしている。	○		○	歯科医の受診の送り迎えを行うケースがある。友人から電話が掛かってきたり、こちらから掛けたりする際には、職員が仲介をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は、特別な看板はなく、普通の住居のたすまいであり、鍵はかけていない。気軽に出入りしていただけるようになっている。	◎	◎	○	玄関には、階段が3段ほどあり、手すりがついている。草木の寄せ植えをしたプランターを飾っていた。玄関の扉には、ホーム名を書いて貼っていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気になるよう心がけている。	○	○	○	建物は、窓の多い造りで外の様子が見える。2階への階段に昇降機を設置している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快にならないように配慮に努めている。			○	共用空間は、職員が掃除を行っており、気になる臭いはなく、清潔にしていた。室内は日当たりがよく、カーテンで日差しを調節していた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾り、行事に合わせた飾りつけなどしている。			○	七夕やクリスマス等、季節行事に応じた飾りつけをしている。定期的に生花を購入しており、テーブルに飾っている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	食堂の椅子に座り、お互いおしゃべりしたり、皆さん自由に過ごされている。自分の部屋で休んだり、本を読んだりされている方もあり				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人さんの使い慣れたものを使っていたいている。その様に支援している。	○		○	自宅から使い慣れたタンスを持ち込んでいる人がいる。テレビを持ち込んでいる人は、ベッドに座って見やすい位置に設置していた。重度の利用者の居室は、医療用機器を持ち込んでいた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	それぞれの方によくわかるように、共用部分には、字や飾りで示したり、個人の部屋には、大きい文字で名前を表示している。			○	日々の居室入り口に表札を掛けている。トイレの扉には、大きいトイレと表示をしている。トイレ使用中には、扉の上部にランプが点くようになっている。風呂場入り口には、入浴中は使用中の札を掛けている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ご自分の好むことができるように、要望に応じて、必要なものを用意している。(新聞、雑誌、ポット等)				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけたまま出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	日中は鍵はかけていない。穏やかに過ごしていただきたいと思っている。	◎	◎	◎	日中、玄関は施錠していない。3月に行った虐待防止についての勉強会時に、鍵をかけることの弊害について学んでいる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族の方には、理解していただいている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	朝用の申し送りを大切にしており、変化があった場合は、その都度申し送るようにしている。掲示して、皆に周知するように努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	個人記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	その様に努めている。主治医には、常に連絡、報告をしており、主治医も対応してくださっている。主治医より指示、処置あり。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	その様にしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	その様にしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人の意向、家族の方の意向を確認している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	認知の症状、苦手な対応、性格などの情報を伝えるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	その様に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	その様にしている。 介護職は、気づきを、伝えることが大切と常に考え努めている。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医に常に相談できるようになっている。主治医の、24時間対応あり。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	そのような体制になっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の内容についての理解はできている。 また変化が見られる場合には、医師、看護師に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	それぞれの方に薬の容器を用意しており、飲み忘れがないように確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	様子を観察しながら、心配な点があれば、主治医に相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	意向を確認しながら、支援を行っている。				重度化した場合、協力医(法人代表者)が家族に説明を行い、希望などを聞いて話し合い、方針を共有している。 今年度は1名の看取りを支援した事例がある。感染症対策を徹底して居室で家族と面会できるよう支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その様に努めて対応している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	見極めを行い、不安なことが軽くなるよう心がけて、申し送り、相談に乗るようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明し、理解を得られるよう努めている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	その様に行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の方の思いを知るよう努め、支援している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	その都度学び対応している。 勉強会でも学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	計画や、取り決めはあるが、日ごろからの訓練は、なかなかできていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	県や市からの情報は、いつも確認し、そこからの指示に従い、随時対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	清潔が保持できるよう支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の方と協力して支援している。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 毎月、管理者は、利用者一人ひとりについて、日々の様子を手紙に書き、写真を添えて送付している。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ禍にて、なかなか交流はできにくい現状あり。	○		評価困難	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族の方には、お便りを書き様子をお伝えしている。できるだけ具体的にお伝えしている。電話したり、写真の送付もしている。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	その様に努め支援している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	理解や協力を得られるよう報告しているが、すべて報告してはいない。必要事項のみ行っている	△		△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	その様に努め、家族の方の理解を得るようにしている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	何でも言っていたりするような雰囲気づくりをしている。家族さんの思いを聞くよう努め、お互い気兼ねなく話せるように心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	解りやすく、丁寧に説明するよう努めている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去事例はないが、体制はあり。利用者さんの都合に即しての退去はあり。その時は、できるだけ協力し、次の場所での生活が安心なものになるよう支援している。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	理解を図っているつもりであるが、積極的にはできていない。		○		自治会に参加している。地域行事は中止ではあるが、神輿の訪問はあり、利用者は、感染症対策を徹底してお花代を渡し、玄関先で見学している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的なあいさつを交わしている。町内会、自治会に参加し、顔見知りの関係あり		◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	見守り、支援してくださる体制があり、有難く思っている。(災害時の協力体制あり)				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	皆さんよく声をかけてくださる。花など届けてくださったりあり。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	玄関先でおしゃべりしたり、日常的な会話あり				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	現在は、関わりに制限あり。できない状況あり。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の味噌屋さん、米屋さん、から、商品を購入している。出前もとっている。スーパーから買い物しており、皆さんとの関係は良い。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	その様であったが、今は、文書開催となっており実際に顔を合わせることはできない状況あり	○		△	一部の家族、民生委員、地域のデイサービス事業所、社協、市の担当者に報告書を送付して、「何か意見があれば言ってほしい」と一文を添えている。メンバーから意見を踏まえて、職員で会議を行っている。 活動や利用者の状況を文書で報告している。外部評価実施後は、外部評価結果や目標達成計画を文書で報告している。さらに、書面開催であっても意見や提案を出しやすいように工夫してはどうか。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	その様に取り組んでいる。		◎	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	今の状況ではできていない。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IVより良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は事業所内に掲げており、周知している。理念に沿って、職員と入居者の方々は家族のように暮らしているとおもっている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	そのようにしている。	△	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるような体制あり				以前は、法人主催の会食などがあったが、定期的に難しいため、今年度は、職員に持ち帰り用のウナギ弁当などを用意してくれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勉強会にて、学習に取り組んでいるが、今後もっと必要と考えている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、職場環境の整備に努めており、協力してくださっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	交流に関しては、反対はなく、認めてくださっている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表者は主治医であり、利用者の体調不良時、急変時、相談にのり診てくださっている。24時間対応可能であり職員は安心できている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	定期的に勉強会を開き、職員間で共有している。問題があれば、その都度意見交換をに対応している。			○	3月実施の事業所の勉強会時に、虐待や不適切なケアの対応について学んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その様になっている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	業務について無理がないよう点検し、働きやすい職場になるよう検討している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3か月に1回、話し合いを行い、点検している。				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を話し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	理解を得られるように努めている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	その様になっている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談に乗り、制度を利用できるように関係機関と連携している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	周知している。 急変時や、事故発生時には、主治医に連絡、指示を得ている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	全ての職員には、徹底できていない現状あり				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その様に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居者の行動を把握し、起こりうることを考え、未然に防止できるように取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応は、基本的に管理者が行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今までに苦情は寄せられていない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	穏やかな関係作りに努めており、相談があれば、丁寧に対応している。現状に不安変化があれば、連絡を密にするように心がけている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	心配なこと、困ったことなどあれば、いつでも相談してくださいとお便りに書き、電話などでもお話ししている。	◎		○	利用者には、日々のケアの中で聞いている。家族には、電話連絡の際に聞いている。 管理者は、職員と一緒にケアに取り組みながら日々の中で意見や提案を聞いている。夏場、職員から「食事提供時間にばらつきがあるので食中毒が不安だ」との意見があり、大きい冷蔵庫の設置につながった。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	その様に心がけている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、利用者の方々の診察に週1度は来ており、管理者、職員からの意見や要望を聞く機会あり。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	管理者は、日動業務をしており、職員とともに利用者本位の支援を心掛け、検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	会議で集まり、話し合っている。				外部評価実施後の運営推進会議報告書で外部評価結果や目標達成計画を文書で報告している。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	意識統一に生かしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをもらっている。	○	皆さんに報告し、話し合いの機会を持っている。	△	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取り組み内容を意識して、確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	作成し、話し合っている。原子力災害においては、対応困難と考えている。				町内会の防災組織に加入している。8月には、消防署立ち合いのもと、火災想定避難訓練を行った。さらに、家族、地域アンケート結果を参考にして取り組みを工夫してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練は行っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	点検を受けている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	協力、支援体制はあるが、訓練などは、今はできていない。	△	◎	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	取り組んできたが、今は、できていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	今は取り組み困難となっている。				現在は、特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談などあれば、丁寧に対応している。経営者は、地域への往診をしており、相談に乗っている。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用なし。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連携は密にしているが、今は、できない状況あり。			×	